

—病院理念— 「愛し愛される病院」

—基本指針—

- 1、私たちは、患者様、ご家族に「おもいやり」をもって接します。
- 1、私たちは、地域に信頼され貢献できる医療を提供いたします。
- 1、私たちは、患者様の在宅復帰を支援いたします。
- 1、私たちは、診療記録を正確に記載いたします。
- 1、私たちは、自己研鑽しよりよい病院を目指します。

【患者様の権利】

- 1、患者様は医療に関する説明を十分受けた上で、治療を受ける権利又は拒否する権利が有ります
- 2、患者様は医師、医療従事者が患者様の知り得た個人情報を守られる権利が有ります
- 3、患者様は病院、医師を自由に選ぶ権利が有ります
- 4、患者様は安全で適切な医療を平等に受ける権利が有ります
- 5、患者様は診療録の開示を求める権利が有ります

ごあいさつ

一雨ごとに秋の深まりを感じる季節になりました。

平成 22 年度も早いもので 6 ヶ月が経過し後半を迎えています。

4 月から日曜日のリハビリ訓練を開始、病棟内リハビリ室兼ディルーム改修増設工事、外来ロビーのレイアウト変更と療養環境の整備を行って来ました。また院内脳卒中バスの運用が開始され、各専門職種が一人ひとりの患者さまのゴール設定を踏まえ、関わりが具体化され内容の深まりを実感しています。

後半の取り組みとしては、個室の改修工事、浴室の環境整備、病棟毎での各職種の意見交換、報告・連絡・相談の機会を多くしていくことで当院が目指す“スキルミックス”に、より近づいていくと感じています。昨年の状況を考えますと年末に向かって、患者さまの重症化が予測されます。

これまでの積み重ねてきた経験を活かして、職員一丸となり、全力で取り組んでいきたいと思っております。

看護部長 みづかみ みつこ
水上 美津子



(山茶花:サザンカ)

院内脳卒中クリニカルパス

脳卒中による障害を持った患者様が、急性期病院での大変な治療を終えて、回復期リハビリテーション病院に移行する場合、その療養環境は著しく変化します。

入院期間・費用・治療内容・どこまで回復するかなど様々な不安をかかえて入院してこられます。

回復期リハビリテーションは医師・リハビリスタッフ(理学療法士<PT>・作業療法士<OT>・言語聴覚士<ST>)看護・介護スタッフ・医療ソーシャルワーカー(MSW)・薬剤師・栄養士などからなるチーム医療で成り立っています。

入院中のリハビリテーションを円滑に行うには、多職種連携が最も重要です。

当院では、院内脳卒中パスの運用を以下の目的で、今年の5月から開始しました。

- ① 患者様・ご家族に「医療介入の見取り図」として掲示する。
- ② 各職種間の連携を分かりやすくする。
- ③ 治療・アプローチの標準化をはかる。
- ④ 達成目標を明確にする。

脳卒中パスは、患者様・ご家族用と医療従事者用の2枚あります。患者様・ご家族用は主治医から入院時にオーバービュー(医療介入の見取り図)として説明され、用紙をお渡しします。医療従事者用のパスはリハビリ実施計画書と共に入院して一週間以内に多職種でカンファレンスを行います。内容は項目の確認と予後予測、要する日数、パスの継続の可否を決定します。その後は定期的にカンファレンスを行いながら退院までの進捗状況、退院計画を話し合います。

運用してから5ヶ月、運用には様々な問題点が発生していますが、今後も検討を重ね患者様が安心して入院生活をおくり、退院後も患者様・ご家族が不安なく生活できるよう活用を進めていきたいと思っております。

看護師 そのだ のりみ
園田 祝美

介護トピックス～トイレ介助編～

当院では自宅へ退院される患者様やご家族に、家を想定した介助方法をご家族へ指導することが多くあります。そこで今回は脳梗塞など半身麻痺(片麻痺)のトイレ介助方法をご紹介します。

1. 便座への乗り移り

麻痺のない手足側に車椅子を便座へ斜めに置きブレーキをかけて、フットレストから足を下ろします。

そして手すりや肘掛けを持ってもらいお辞儀をするように立ち上がります。

(便座に腰掛けた時に麻痺の無い側の前方に手すりがあると便利です)

立ち上がった姿勢が安定したら麻痺のない足を軸にして身体を回転させます。

2. ズボンの上げ下ろし

介助者は麻痺のある側に立って見守りや介助を行います。

介助者がズボンの上げ下ろしを介助する場合は、しっかりと手すりを持ってもらい壁を体の支えにすると、より安定して行えます。

3. 便座への腰掛け

立つ時と同様にお辞儀をするように行くと座りやすいです。

4. 後始末

できる方はご自分で拭いてもらいます。

その際、トイレットペーパーを片手で切るのが難しい方は、予め適当な長さに切ったペーパーを用意してあげるといいでしょう。

ここで挙げた介助方法は一例であり、患者様の運動能力や家のトイレの便座位置や造りなどによって異なります。その際私たちはまず患者様が転んで怪我をされないよう、また介助者に大きな負担にならないように『安全』を考えます。そしてもう一つ大切なのは『過介助にならない』(手伝いすぎない)ということです。なぜならばリハビリテーションは病院だけで行うものではなく、自宅での動作一つ一つも『リハビリテーション』だと考えているからです。

最後に、「プライバシーの尊重」をすることも大切です。誰もがトイレ介助を望んでいないと思います。たとえ家族であっても安全であれば用を足している間はトイレの外で待つなどの配慮も必要だと思います。

バレーボール部活動報告



医業健康保険組合バレーボール大会

私達は8月7日に行われた、医業健康保険組合バレーボール大会において優勝し、三連覇を果たすことが出来ました。

長谷川キャプテン率いる私達のチームは、全員の職種が違うためなかなか全員揃って練習することが出来ませんでした。また、打倒杉並！と練習を重ね年々多くのチームが磨きをかけている…そんな中で大会当日を迎えました。しかし、そこは日頃のチームワークや元気の良さでカバーし、いつものように楽しくプレーすることが出来ました。

門脇院長先生を始め、大野事務長、松原コーチ、運動部、仕事後に練習に参加して下さった皆さん、当日応援に駆けつけて下さった皆さん、多くの方々に感謝しています。有難うございました。来年の大会でも優勝目指して頑張りますので応援よろしくお願いたします。

リハビリテーション科 言語聴覚士 茂石 梨佳



給食委員会

給食委員会では患者様の皆様がお昼の時間をより一層楽しんで頂くために、お昼の放送というものを行っております。

毎週水曜日の 12:30 から一週間の時事の情報などを交えつつ、2,3曲程度患者様より頂いたリクエスト曲を流しています。

少しずつですが、患者様よりリクエストが増え、患者様より「毎週水曜日が楽しみ!」、「みんなと口ずさむのがとっても楽しいのよ」などのお言葉を頂いております。

病院での楽しみは食事とよく耳にします。その食事の時間が少しでも患者様に有意義に過ごして頂けるよう、今後も患者様が過ごしやすい環境を整えていけるように試行錯誤していきたくと思います。



院内エコ活動

地球温暖化はすぐにどうにかなるものではありません。

非常に広範囲・長期間にわたり地球への影響が考えられ、またすぐに目に見える形で表面化しないものです。少しずつの努力が大事ということです。

当院もなにか地球のためにエコに取り組めることはないか。ということで、まず始めたことがペットボトルのキャップ集めです。去年の12月から始めて今は45ℓのポリ袋4袋分集まりました。集めたキャップはワクチンの他に医療用廃棄箱やチリトリなどに変わります。

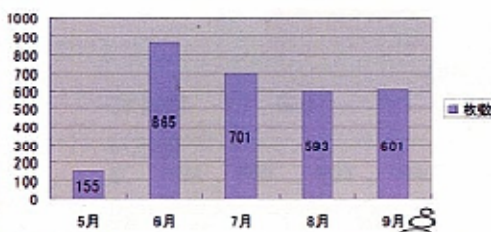
そして今取り組んでいることは、職員のクリーニング済みのユニフォームが入っているビニール袋の再利用です。

何の目的で回収し、再利用しているかといいますと、1.ごみの削減 2.使用済みのオムツを入れ防臭対策などに使用しています。

回収率も徐々に上がり、5月末より始めて9月24日現在2915枚のごみの削減! 再利用成功しております。

これからも様々なエコ活動を行っていきたくと思います。

ユニホームビニール袋回収枚数



9月24日現在

2915枚



秋の杉並リハの日

毎年、春と秋に杉並リハの日を開催しております。

主に地域住民の皆様のご健康づくりのサポートと当院の機能(回復期リハビリテーション、外来診療など)を紹介するものです。

今回は当院の院長である門脇が講演「脳卒中にならないためには」を行いました。

参加された方は時には質問もされながら、聞き入っていました。

2時間ほどのイベントでしたが、約30名の方が来場され、講演の他に食事相談やお薬相談など参加されていました。

今後も地域の医療の貢献のためこのようなイベントを行っていきたくと考えております。



総務課 佐野 佳子

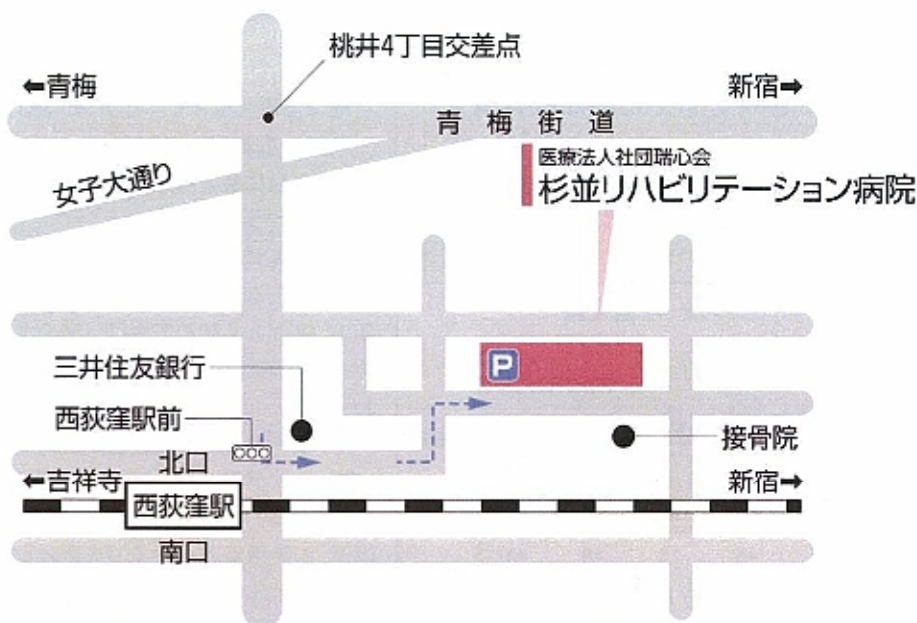
～当院の現況～

	平成 22 年 7 月	平成 22 年 8 月	平成 22 年 9 月
稼働率	97.3%	99.5%	97.4%
入院延べ患者数	3086 人	3143 人	2993 人
在宅復帰率(直近 3 ヶ月:7~9 月)	-----		71.6%
重症患者割合(直近 6 ヶ月:4~9 月)	-----		30.2%
重症患者回復病棟改善割合(直近 3 ヶ月:7~9 月)	-----		63.6%

* 重症患者・・・日常生活機能評価で10点以上の新規入院患者の割合

* 重症患者回復病棟改善・・・重症患者のうち3点以上の者が改善している割合

交通のご案内



- JR中央線・総武線 西荻窪駅下車 北口 徒歩2分
- 青梅街道 桃井4丁目交差点より西荻窪駅方向約1km
西荻窪駅前信号を左(一方通行)

病院概要

開院	昭和43年10月
理事長	中村 康彦
院長	門脇 親房
病床数	101床(4床室・個室)
診療科目	内科・リハビリテーション科
診療時間	毎週 月・火・水・木・金 9:00~12:30
発行責任者	門脇 親房
発行	杉並リハビリテーション病院 広報委員会

医療法人社団 瑞心会 杉並リハビリテーション病院

〒167-0042 東京都杉並区西荻北2-5-5
 TEL.03-3396-3181 (代) FAX.03-3396-3186 (代)
<http://suginami-reha-tokyo.jp/>